

デボーション: 「なぜ叫ぶのか？」

2026年9月9日

今週の御言葉

出エジプト記 14章15～16節

「なぜあなたはわたしに向かって叫ぶのか。」

イスラエル人に前進するように言え。

あなたは、あなたの杖を上げ、あなたの手を海の上に差し伸ばし、
海を分けて、イスラエル人が海の真ん中のかわいた地を進み行くようにせよ。」

今日のストーリー

エジプトを出たイスラエルの民の前には、紅海がありました。

後ろにはエジプト軍。

前には海があり、逃げることも、進むこともできないように見える状況です。

当然、彼らは恐れる理由がありました。

そして助けを求めて叫びました。

しかし、そのとき神はモーセに不思議なことを言われました。

「なぜあなたはわたしに向かって叫ぶのか。」

不可能な状況を前にしているのに、「なぜ叫ぶのか」と言われたのです。

そして、神は「イスラエル人に前進するように言え。」と命じたのです。

海が分かれてから歩け、道が見えてから進め、とも言われていません。

前進しなさい。それだけでした。

信仰の歩みは「すべてを把握して進む」のではなく、

「神が言われたから進む」生き方だからです。

黙想

イスラエルの民は、エジプト人に追われ、目の前には紅海があるという状況で、
主に向かって叫びました。

彼らはいつものことをしているだけだと感じていました。

なぜなら、彼らはエジプトに囚われていたときから、

苦しい時には何度も叫んできたので、今回もいつも通り叫んでいたのです。

イスラエルの民が助けを求めたことが間違いではありません。

しかし、同じ叫びでも、その中身が違います。
助けを求める叫びと、恐れによって何もできなくなった叫びは違います。
恐れから出る叫びは、どうしよう、できない、
もう終わりだという不足に支配された叫びです。

一方、信仰から出る叫びは、恐れに支配権が渡っていない叫びです。
信仰があるということは、恐れがまったくなくなるのではなく、
恐れがあっても、恐れに選択権を渡さないことです。
前進は信仰か恐れの支配権問題です。
恐れていても、分からなくても、見えなくても、それらには支配権がない。
それが信仰です。
聖書は言います。

「信じる者には、どんなことでもできるのです。」マルコの福音書 9章23節
信仰は、状況よりも、神が語られたことを重要視することです。
すべての思いやはかりごとの上に神の言葉を置くことです。
神は人の「必要」ではなく、「信仰」に応えます。
つまり、神は人の「必要」だけを見るのではなく、人の「信仰」を見るかたです。
私たちは自分の不足や必要を見ますが、
自分の信仰には、気をつけてますでしょうか？

今まで、私自身も「神様、私に語ってください。あなたの声を聞きたい」
と何度も祈ってきましたが、その祈りが聞かれた実感は与えられませんでした。
なぜなら、神はすでに語っておられたからです。
問題は、神が語っていないことではなく、
私が「語られている」と信じられなかったことでした。
不足の意識や不信仰は、神がすでにしておられることを見えなくしてしまうこと
に、私たちが注意を払う必要があります。

結びの言葉

イエスは、奇跡を行う前にまず父に感謝されました。
まだ目に見える結果が現れていなくても、父なる神に感謝されたのです。
それは、神は、私たちが祈る前から働いておられるからです。
愛するみなさん、
神はすでに働かれ、語っておられるので、
恐れによって立ち止まるために叫び続ける必要はありません。

あなたの前進は、海がまだ分かれていなくても、道が見えていなくてもいい。
すべてを理解していなくてもいいのです。
なぜなら、海をも分ける一步を踏み出すものとして、
あなたは神に導かれるからです。
あなたは、神と共に歩むために生まれてきたのです。

～お祈り～

父なる神様、私が状況だけを見て、
恐れに支配されることがないことを感謝いたします。
道が見えないときも、あなたが共におられることを信じます。
恐れがあっても、その恐れに私の選択を支配させません。
状況に支配されない生き方を今受け取ります。
自分の考えや経験ではなく、あなたの御言葉によって選択する者にしてください。
私が祈る前から、あなたが働いておられることを信じます。
今日も不可能がない、
道が見えないところに踏み出すものとして機能させてください。
イエス・キリストの御名によって祈ります。
アーメン。

牧師：ソウザ・チアゴ

HP：<https://mikotoba-church.com>

Growth of Faith デボーション | No.47